2025年3月期 第1四半期 アナリスト様向け Zoom ウェビナーカンファレンス 主な質疑応答記録

日時：2024年7月29日（月） 17:00～18:00

出席者：取締役常務執行役員 基盤事業本部長 松浦 一慶
取締役常務執行役員 管理事業本部長 曾根 芳之
取締役常務執行役員 高機能事業本部長 小西 裕一郎

【高機能材料】

ご質問：2024年7月29日時点の業績予想において、高機能材料は第1四半期から第2四半期にかけて減益の見通しだが、製品別の動きについて説明してほしい。

回答：シクロオレフィンポリマーについては第1四半期から第2四半期にかけて大きな変化は見込んでいない。光学フィルムについては、中小型向けがスマートフォン向けを中心に第1四半期から第2四半期にかけて下振れの見通しとしている。要因として、例年スマートフォン向けは上期に出荷が偏る傾向にあることに加え、大型フィルムは第1四半期の特殊要因として能登半島地震によるプラント停止後の反動増で出荷が増えている。電池材料は、第1四半期から第2四半期にかけて大きな変化は見込んでいない。第3四半期以降、復調の期待はあるもののEV向けを中心に力強さは感じられず、基本的には下期についても低調が続くと見ている。

ご質問：電池材料について、日本ゼオン単体の出荷量と連結業績で動きに差が出る理由を説明してほしい。

回答：電池材料の製造拠点は現時点で国内のみであり、日本ゼオン単体から中国、欧州等に出荷している。第1四半期は民生他向けを中心にQoQで日本ゼオン単体からの出荷量は伸びたものの、今回の決算は海外子会社の1-3月の業績が連結されているため、ドイツの補助金打ち切り発表以降の欧州市場冷え込みに加え、中国について旧正月の季節要因が重なり、海外子会社が悪化したタイミング業績を取り込んでいる。

ご質問：高機能材料の要因別営業利益差異分析について、原価差が大きく改善した背景は何か。

回答：光学フィルムにおける歩留まりの改善が主要因である。能登半島地震の後、稼働が大きく改善したことに加え、2023年9月に立ち上げた新ラインの稼働も堅調であった。

【エラストマー素材】

ご質問：2024年7月29日時点の業績予想において、エラストマー素材は第1四半期から第2四半期にかけて、また上期から下期にかけて減益の見通しだが、製品別の動きについて説明してほしい。

回答：エラストマー素材は、需要そのものは堅調と見込んでいる。そのような中で、第1四半期から第2四半期にかけて減益を見込んでいる理由は、徳山工場が9-11月で定期検査を行うので、ポリウムゾーンの汎用ゴム（タイヤ向け）の出荷量を調整するためである。また、アジアブタジエンが2024年7月29日時点では\$1,400前後で推移しているものの、下期のアジアブタジエンの見立ては\$1,100程度になるとの前提を置いている。したがって、下期にかけて原料価格下落に伴う販売価格の下落を加味した結果、下期は減益になるものと見込んでいる。本日時点でアジアブタジエンが高値で推移している要因は様々あるものの、一つにはブタジエンのサプライヤーの生産トラブルが尾を引いていると聞いているため、その解消を織り込んだものである。さらに、第4四半期には間接部門費用が増加し、利益が下方に振れていくのが通常の流れであり、こちらも下期業績予想に織り込んでいる。

化成品については、市況が回復しつつあり、数量が動き出した。しかしながら、ナフサの高騰分および原価（ユーティリティ含め）の満額を販売価格でカバーできておらず、しばらくは厳しい状況が続くと見込んでいる。

ご質問：為替が円安に推移し、アジアブタジエン価格も高止まりした場合、業績予想はアップサイドで着地する余地はあるか。

回答：為替の円安は、弊社の業績にとってポジティブである。また、アジアブタジエン価格に関しては、輸出のスポット価格はブタジエン市況を中心に交渉していくため、高止まりすれば上振れ要因になる。

ご質問：特殊ゴムの需要堅調とのことだが、アイテム別に状況を教えてほしい。

回答：弊社の特殊ゴムのボリュームゾーンは、徳山工場で生産する NBR である。用途は、一般工業用の搬送ベルトや靴底等のボリュームも多く、自動車と必ずしも出荷量が相関しない。NBR はアジア景気全体の影響を受ける傾向があり、足元の出荷量は力強さを欠く状況である。中国景気の低迷が続いていることが背景にあると推察している。一方で、HNBR は欧米へのベルト需要も含め、足元で堅調に推移している。また、ACM も出荷が増えており、全体の出荷量増を牽引している。

ご質問：HNBR について、PFAS 規制によるフッ素ゴムからの代替需要はあるか。

回答：グローバルマーケット全体で PFAS フリーを起点にして HNBR に切り替えていくという動きは今のところ見えていない。ただし、半導体装置向け等にも特殊ゴムは使われており、お客様からのご評価をいただいているところではある。

ご質問：国内自動車生産が低調となっているが、第 2 四半期以降に解消されていく見通しか。

回答：一概にそうとは言い切れない。国内生産台数が若干下振れているようだが、当社のお客様は国内だけでなく、グローバル OEM も含まれる。例えば、HNBR は国内・米国の 2 拠点で生産しており、米国から欧州に持っていくパターンも、米国からアジア域に持ってくるパターンもある。グローバル全体でカバーしていく形になるため、世界の自動車生産台数に見合った形での出荷になる。

以上